

## クルーザーで淡路の海を堪能

有馬温泉が関西の奥座敷なら、こちらは関西を代表するくつろぎの縁側。大阪湾、播磨灘、鳴門海峡に囲まれた淡路島である。

その中心地、洲本市を拠点にするホテルニューアワジが、海の魅力を満喫する新しいサービスを始めた。英国製の豪華クルーザーを購入し、系列ホテルの入浴や食事とセットにした大阪湾クルーズに乗り出したのだ。全長15メートルの船にはリビング、寝室、キッチン、トイレ、シャワーがある。写真で見れば、船内はまるでホテルの雰囲気である。チェックインを済ませると、専属船長の操縦で海を楽しみ、朝は船上での朝食もできる。

1日1組の貸し切りで、定員は大人2人、子ども2、3人。平日なら1泊2食付きで大人1人4万9500円から。

高価格帯にしたのは「極上の体験」を提供したいからと、木下学社長。「潮風、波の音、心地良い揺れなどの海の自然を満喫してほしい」と言う。

コロナ禍で団体旅行や出張などでホテルを利用する人が減った。コロナ後を見据えて案を練る中で浮かんだのが、目前に広がる海だった。感染防止で不自由な生活を強いられた都市部の人たちが求めるのは「おいしい食材や豊かな自然」と木下学社長はにらむ。「感染が落ち着いたとき、支持してもらえる場所に」というわけだ。

もちろん中長期的には訪日外国人（インバウンド）が再び増えることを視野に入れる。神戸空港や関西空港へ観光客を迎えに行く。あるいは連泊の人がいたら播磨灘から小豆島などへの案内—というプランも描いている。

大都市に近く、それでいて自然に恵まれて。淡路の存在感が強まりそうだ。

神戸新聞社 特別編集委員 林 芳樹



デッキで給仕のデモンストレーションをする  
木下学社長と従業員＝洲本市沖



新事業に使うクルーザー＝洲本市